





寺子大學
殿刻鑑全





至徳天皇
万民の
雨

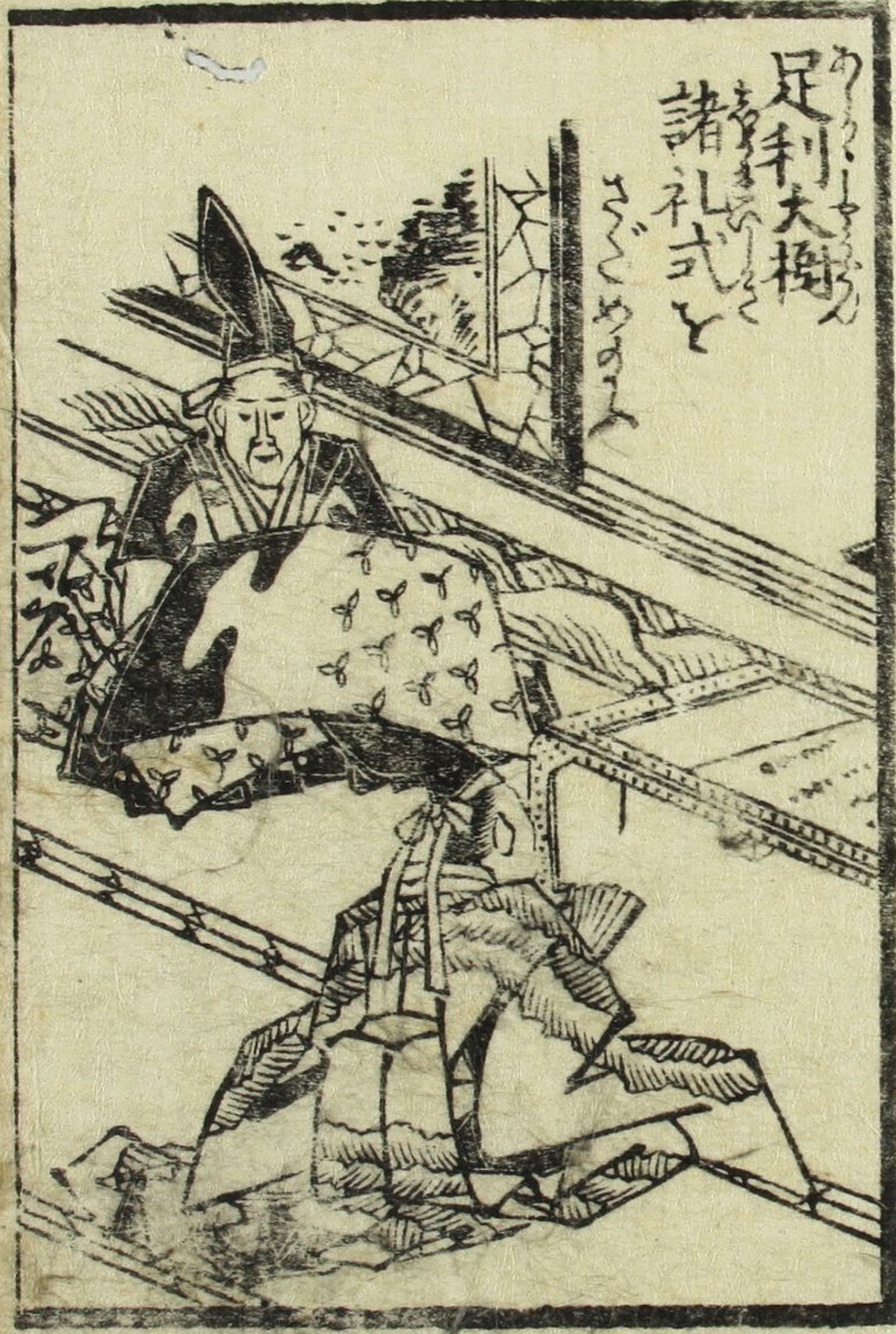


仁



義

玄德関羽張飛の三傑 桃園の義
徳川







○二月 和名 睦月
 とつろの清神が
 奥儀抄ふまは
 互ひふりかへ
 おふりまがさ
 月とらつと
 初日とえ日と
 一年のふかふか



○二月 夜更そと
 日く奥儀抄
 け月へ余字ふけ
 一くして更そと
 夜と
 奥儀抄
 奥儀抄
 とつろ



○二月
 春の初め
 花の匂い
 鳥のさえずり
 水のせせこめ
 風のそよぐ
 雲のたなびく



○四月
 春の深まる
 花の散る
 鳥のさえずり
 水のせせこめ
 風のそよぐ
 雲のたなびく



○五月 皇月
 け月 子角と梅
 時あまの月
 の馬あまの
 又月あまの
 と梅あまの
 の卵あまの
 美園あまの



○六月 水月
 早あまの
 りら水泉七枯
 うあまの
 昨日あまの
 又名あまの
 ねあまの
 うあまの
 のあまの



○七月文月
 七夕の文月
 七文の文月
 七文の文月
 七文の文月
 七文の文月
 七文の文月
 七文の文月
 七文の文月
 七文の文月



○八月葉月
 八月の葉月
 八月の葉月
 八月の葉月
 八月の葉月
 八月の葉月
 八月の葉月
 八月の葉月
 八月の葉月



○九月 長月

後を月の里まう

九日 酉九

何れもれが

行くとくえり

十日 酉九

酒とのめりす

ふるとせぶる

これ彭程の例えん



○十月 神在月

法神(きん)の

大社(おほやしろ)の

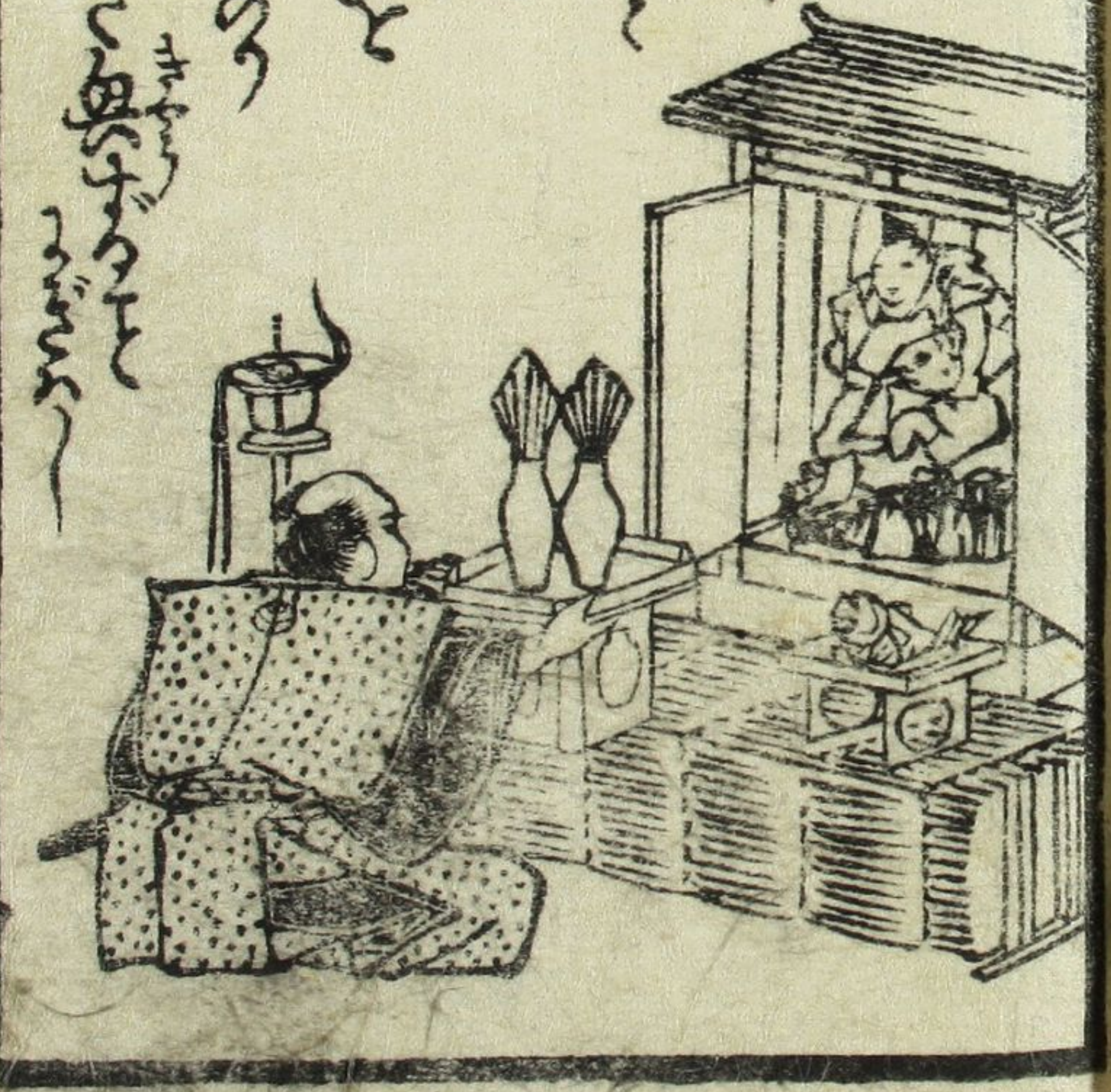
金(かね)の

いづれ

信(しん)の

まう

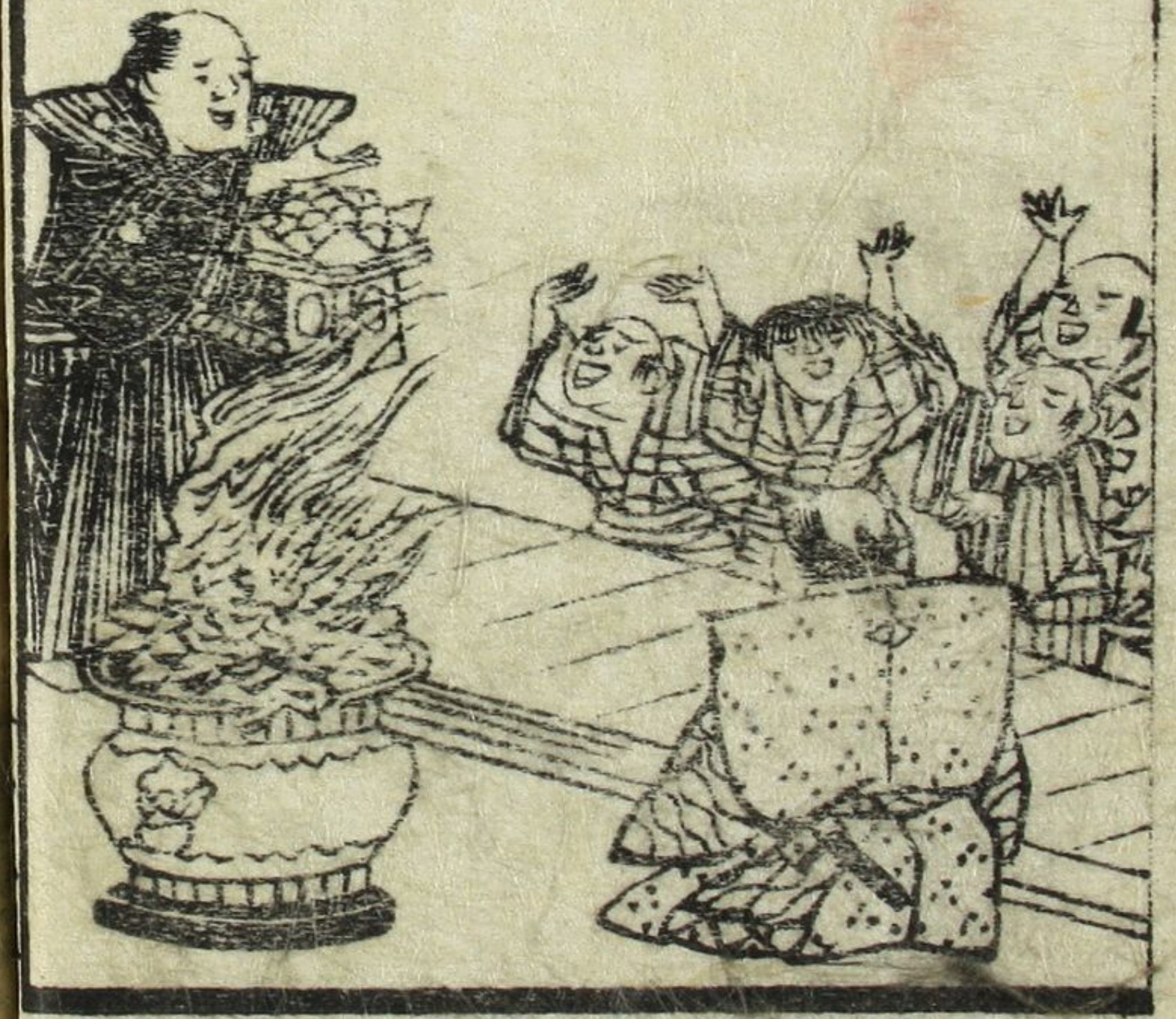
親(おや)の



○十二月 卯也
 此月 卯也 卯也 卯也
 先とし入 後後
 せしむる 更入 卯の 卯
 ぬきけり の ぬき
 ぬき ぬき ぬき
 後 係 と 未 前
 青 あら い の ね 行
 と う ぐ 振 り



○十一月 子也
 此月 子也 子也 子也
 火と 煙と ともく 振
 陽気と ともく
 陽気と ともく
 陽気と ともく
 陽気と ともく





大學子皆甲也序
 大學之書古之大學所
 以教人之法也蓋自天
 降生民則既予不與之
 以仁義禮智之性矣純



其氣質之剛或不能得
 其氣質之柔或不能得
 其氣質之剛或不能得
 其氣質之柔或不能得

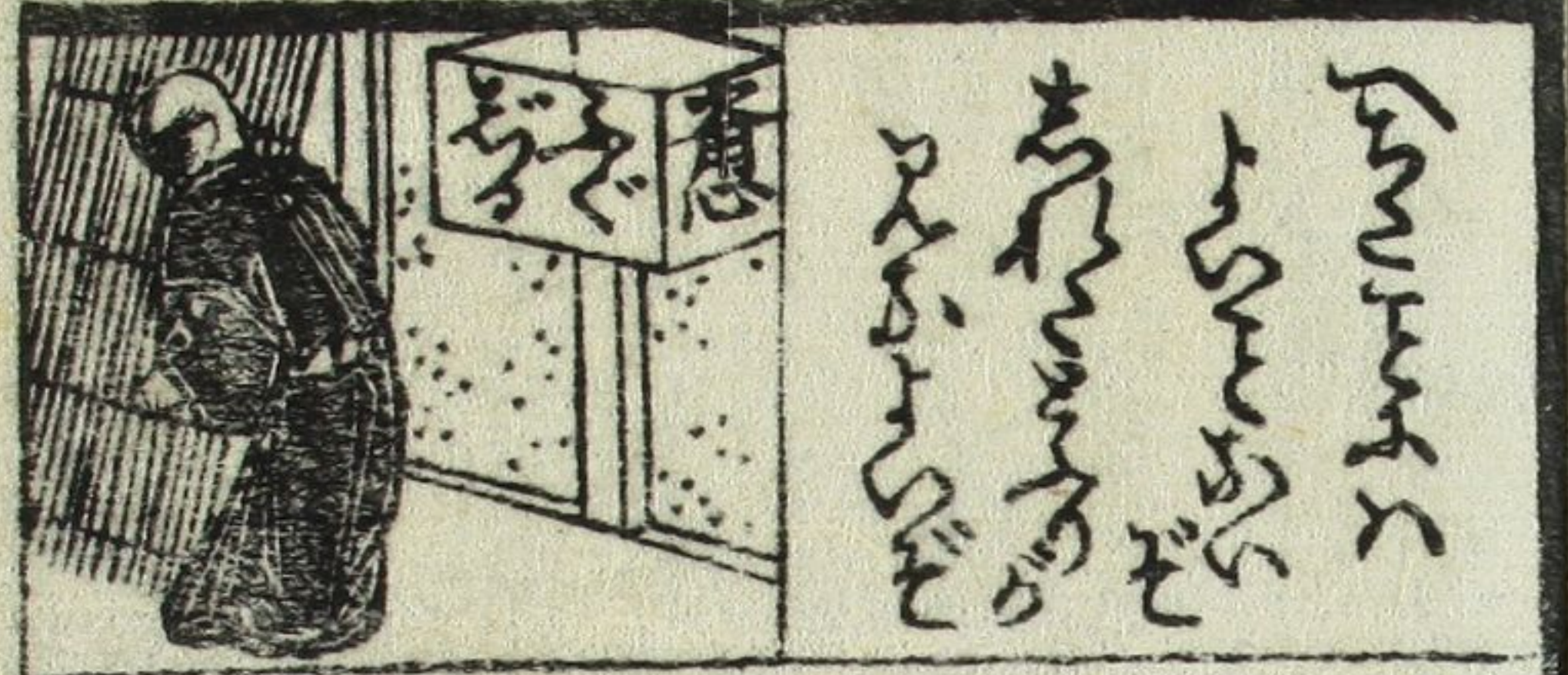
其氣質之剛或不能得
 其氣質之柔或不能得
 其氣質之剛或不能得
 其氣質之柔或不能得



之以為億兆之君師使
 之以為億兆之君師使
 之以為億兆之君師使
 之以為億兆之君師使

仁心仁聞
 仁心仁聞
 仁心仁聞
 仁心仁聞
 仁心仁聞

也三代之治之法度備
 也三代之治之法度備
 也三代之治之法度備
 也三代之治之法度備
 也三代之治之法度備



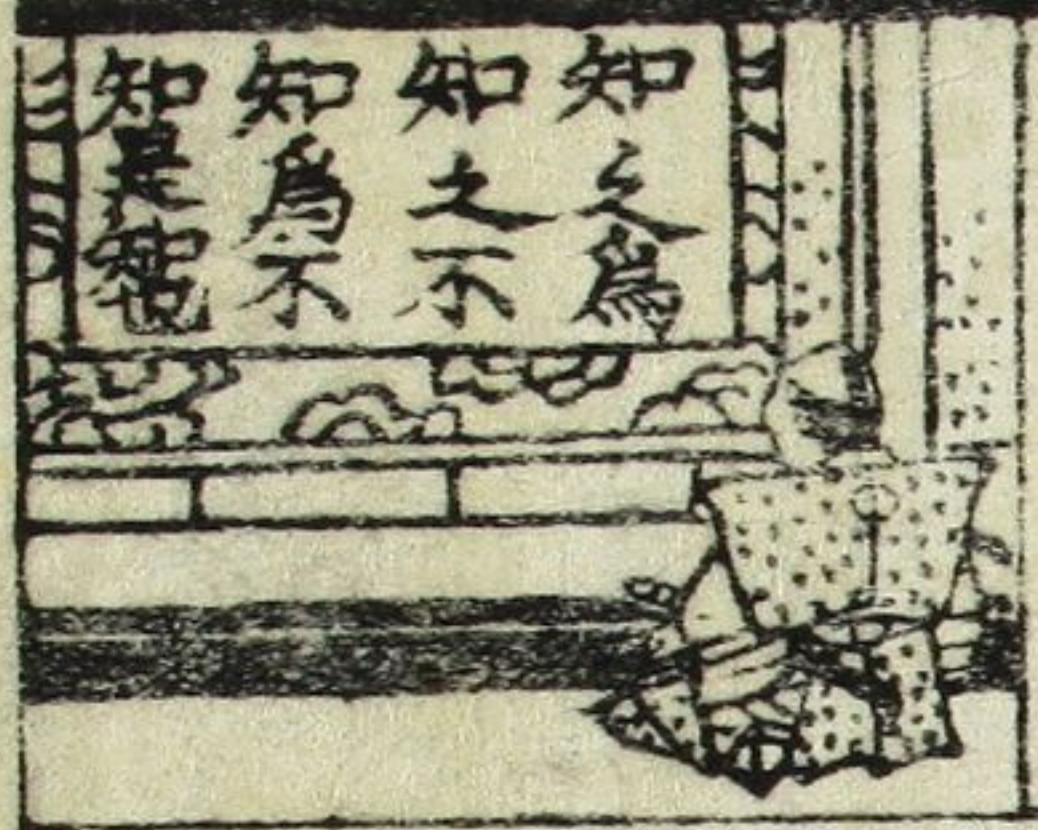
教之以灑掃應對進退
 教之以灑掃應對進退
 教之以灑掃應對進退
 教之以灑掃應對進退
 教之以灑掃應對進退

知是德
 知為不
 知之不
 知之為

廣如此教之之術を以て
 其所以為教訓又皆本
 之人君躬行心得之傳
 不待求之民生日用學

備已活人々乃け又學
 校之教大小之高而所以
 分也又其學校之設を以て

其所以為教訓又皆本
 之人君躬行心得之傳
 不待求之民生日用學



あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち



あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち

倫之外は皆世之人
無不學其學皆世之人
有以知性命之所圓
有職分之所當為而各
使焉以其力也古者

盛時所以治隆於上俗
美於下而能垂世之所
社及也及周之衰賢聖
之君不作學校之政不
脩教以凌夷風俗取

あしひび
あしひび
あしひび

かおせわが
かおせわが
かおせわが



よふしりかやく
よふしりかやく
よふしりかやく

時約有差孔子之聖也
不得君所之位以行
政教於是独取之
法補而修之以治後世
志曲禮少儀内則并子

職諸篇固小学之支流
作商而此篇者制固小
学之末切以著大学之
明法亦有以推之
夫人内而有政



Shankha
Sankha
Sankha
Sankha

Shankha
Sankha
Sankha
Sankha

其地指傳術數一切以
然切名之從與夫百家
危殆之流所以發世經
民先塞仁義者又紛然
新也平其間使君子

Shankha
Sankha
Sankha
Sankha



不幸白子得聞大
要者小人不幸而
蒙全治之沃晦盲者
反覆沈痼以及又
衰而壞亂極矣天運循



ことばも
 ことばも
 ことばも
 ことばも

之次之簡編教を掃起
 後古著大學教人々
 法聖經賢傳之指繁然
 後明於世惟以善之不
 敏亦幸私淑而與有也

ことばも
 ことばも
 ことばも

後世性不復宋德治盡
 治教休明於是河南程
 氏有夫子出而有以接
 乎遺氏之傳寧始於信
 け篇而表著之既又為

ことばも
 ことばも
 ことばも

おののけ
しんが
しんが
しんが

ののけ
しんが
しんが
しんが

皇願を男書に願投矢
是以て天子固陋采白輝
之間亦痛附已之猶を
穎畧以候後し君子抱
知借偷を討逆飛結能



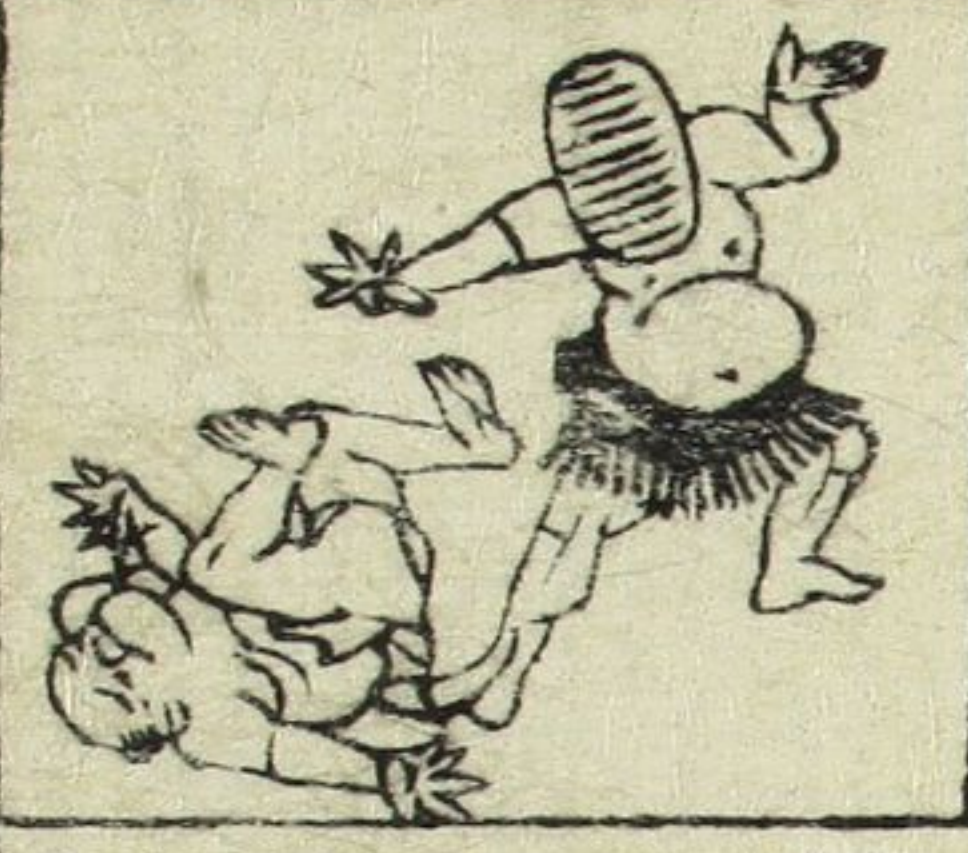
おののけ
しんが
しんが
しんが

國家に民來信とて字
若情已治人し方刻
必と小補云漢怨已爾
二月甲子新安女志序

くものかん
おしん
うその
たす

やん
あや
あや
あや

まけ
まけ
まけ
まけ



大學

朱熹章句

子程子曰大學孔氏
の遺書而初学入徳
之門也故今可見古
人為学必先格致
之学

け篇と存と論と
之学者必中是学
也

大學之道在明徳在
親民在止於至善知止

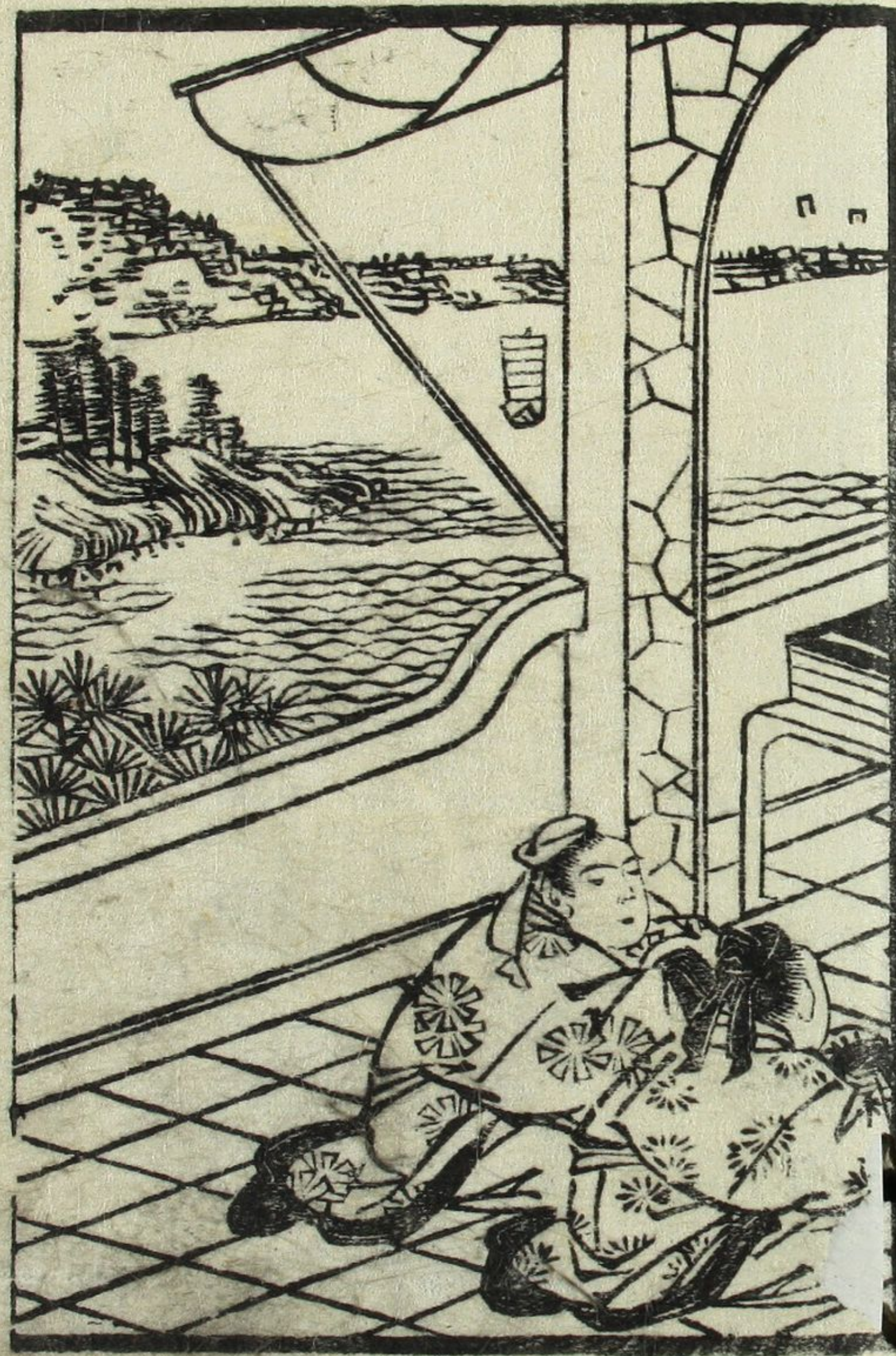


欲治天下者先治其家
欲富天下者先富其家
欲安天下者先安其家
欲尊天下者先尊其家

欲治天下者先治其家
欲富天下者先富其家
欲安天下者先安其家
欲尊天下者先尊其家
欲正人心者先正其身
欲正其身者先正其心
欲正其心者先正其意

欲治天下者先治其家
欲富天下者先富其家
欲安天下者先安其家
欲尊天下者先尊其家

而后有定定而后能静
而后有定定而后能静
而后有定定而后能静
而后有定定而后能静
而后有定定而后能静
而后有定定而后能静
而后有定定而后能静
而后有定定而后能静



萬物皆備
 於我
 而後
 知
 之
 也
 夫
 道
 之
 在
 我
 猶
 水
 之
 在
 魚
 也
 魚
 無
 水
 則
 死
 人
 無
 道
 則
 亡
 矣

夫道之在我猶水之在魚也
 魚無水則死人無道則亡矣
 夫道之在我猶水之在魚也
 魚無水則死人無道則亡矣
 夫道之在我猶水之在魚也
 魚無水則死人無道則亡矣
 夫道之在我猶水之在魚也
 魚無水則死人無道則亡矣

夫道之在我猶水之在魚也
 魚無水則死人無道則亡矣
 夫道之在我猶水之在魚也
 魚無水則死人無道則亡矣



有清者今因程子
 定而更考純文別為
 序次如左

康誥曰克明德大甲曰
 顧天之明命帝典曰

ちんちんちん
 ちんちんちん
 ちんちんちん

ちんちんちん
 ちんちんちん
 ちんちんちん

克明後德皆自明也
 右傳之首章釋明明
 德

湯之盤銘曰苟日新日
 日新又日新康誥曰作



ちんちんちん
 ちんちんちん
 ちんちんちん

新氏結曰周維新約也
 命維新是故君子無所
 不用之也

右傳之二章新約也
 詩云邇哉千里惟民
 詩云邇哉千里惟民

あつて
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて

正行云得... 止于
丘隅子曰... 止如
止可... 如
待云... 如
殺止... 如



あつて
あつて
あつて
あつて

人止... 如
待云... 如
待有... 如
如
如
如

甘き蜜の如き
人とならば
ものごとく

すまは
あなごころ
こころのね

糸の
たね
あふ
あつめ
ゆき

くひひありちひひありんしつひびす
う唱号有斐君子終不
の宿号如切如後若乃
夢也如琢也磨者自脩
也若乃個号者胸襟也
赫々言若若威儀也有

いさるんしつひびす
斐君子終不
道感徳也若氏く不徳
ふ也待云終敵者不
念君子賢者受る親者
親小人業も業も
終不



利此以汲者不志也

太傳之三言 叙止於

玉者

子曰德教之於人也必

也使君子必平 善信者必

七ツ
以呂波

イ 嵬
イ 俾良
イ 俾良

得るを辭大畏及志け

謂知本

右傳之曰章叔本末

此謂知本け謂知也

也



ろ 呂 口
呂 魚 海
魚 魚 魚

は 波 八
波 波 破
波 波 八

に 仁 二
仁 入 丹
仁 而 耳

ほ 保 保
保 浦 保
保 方 保

大傳一ノ音字無異格
物に知し我而今亡
矣因嘗藉以程子
名以補之曰的得波
知在格物之言欲波

吾之知在即物之理
吾之知在即物之理
吾之知在即物之理
吾之知在即物之理
吾之知在即物之理
吾之知在即物之理
吾之知在即物之理
吾之知在即物之理

へ 互 へ
互 邊 うすやう
偏 平 うきうたう
軸 兵 うたう

と 止 と
止 電 とまのち
末 途 ひつち
浚 斗 くわう

ち 知 ち
治 統 ちゆう
統 統 ちゆう
千 統 ちゆう

り 利 り
利 里 り
裏 離 うら
理 梨 り

ついでに、このこと、
「是は以て大學始教
をばして、
必使學者即凡天下
の事物、
「物その固きを已知
の、
「理の益を以て求
むる、
「玉手を物玉に用力
す」といふこと、

の、
「之れを一旦豁然と
して、
「通焉、
「精粗を不別とす、
「令彼大用無不明
矣、
「此れ、

又 乾 ぬ
無 滯 奴
淋 滯 勞

ル 留 ろ
傍 歎 為
流 累 漏

ヲ 遺 を
懸 遠 幸
倦 倦 越

ヲ 和 わ
把 輪 和
後 色 優

新得識者者母日飲
也如思真如好好色
け之得自後故君子必
情者福也小人因居為
不善者新不善見君子

而後厭然揜者不善為
者者善人者視己為人
子必情者福也君子必
謂後於中於外故君子
子必情者福也君子必

か 加 加
か 加 加
か 加 加

よ 與 與
よ 與 與
よ 與 與

目約親十の新指を度
手。是の洞を徳に可心度
其律故君子也彼の心
大徳の心一草款徳云
所謂情身在正心者

た 太 太
た 太 太
た 太 太

れ 禮 禮
れ 禮 禮
れ 禮 禮

身有の念怠り不得
心有の怒懼り不得
心有の好楽り不得
心有の憂患り不得
心不在曾視る不見

ろ 曾 陳 祖
ソ 蘊 宗

ツ 門 津
野 巨 津
却 對

ね 祿 祿
子 祿 會 根
穩 傷

ナ 奈 索 那
細 難 名 南

徳を以て安んずるを知らず
味は謂はれず
大傳は十卷正心
修身
所謂舟を家仕修むる

若人其の所を修むる
官之其所を修むる
之を以て其の所を修むる
之を以て其の所を修むる
之を以て其の所を修むる
之を以て其の所を修むる
之を以て其の所を修むる
之を以て其の所を修むる

ム	武	武	ラ	良	ら
室	勢	武	執	米	良
孫	多	多	操	粒	粒

夫のそののむすむ人々をあるのCantus
 知を無思の知其美志
 てんうふたふらーのCantus
 天下解矣故法有之曰
 人其知をふらーのCantus
 主南一願此理分不備
 不可以存其家

#	爲	の	少	字	ろ
居	造	爲	有	有	字
依	位	易	爲	有	大

奇家
 大傳八章釋情
 新理法固必先存其家
 者其家ふの貴也其家
 人其家ふの貴也其家
 人其家ふの貴也其家



乃の
乃の
乃の

才於
才於
才於

家而求教於國者之所
心求也亦之所求
也也意者所以使能也
康信曰為保赤子之謀
求之於不中亦求之矣

又久
又久
又久

や也
や也
や也

有君子者子而居焉者也
一家仁一國與仁一家
德一國與德一人食慶
一國他亂者猶如此此
偶一之債事一人定國

ま 末 マツ
末 マツ
末 マツ
末 マツ

け 計 ケイ
計 ケイ
計 ケイ
計 ケイ

ふ 不 フ
不 フ
不 フ
不 フ

こ 古 コ
古 コ
古 コ
古 コ

先帝天下以仁而民
從之樂討天下以暴
而民從之也
新而民之授是也
孔子法已而求法人

孔子法已而求法人
先帝天下以仁而民
從之樂討天下以暴
而民從之也
新而民之授是也

工 江の
 如 今
 校 校

て 天
 侍 侍
 天 天
 侍 侍

軍人其家人
 后以教國人侍
 兄官身官兄官身而
 以教國人侍
 武心是也國
 武心是也國

あ 安
 安 安
 安 安
 安 安

さ 左
 左 左
 左 左
 左 左

子身是法而后民法
 之也此偶治國在奇
 武心是也國

右傳九章釋
 治國

子	幾	キ	由	由
子	幾	キ	由	由
子	幾	キ	由	由

不謂平天下在治國
 若上老老而民與老上
 長長而民與身之恤孤
 白民不信是以君子有
 挾怨之方也而無能上

メ	夕	夕	夕
メ	夕	夕	夕
メ	夕	夕	夕

母以使下所無於下母
 以事上無於上母以
 先後所無於後母以從
 前所無於前母以交於
 左所無於左母以交於

之 出 之 思
 志 舒 志 思
あきらめ あきらめ あきらめ あきらめ

工 專 多 志
 稜 業 志 志
はなれ あきらめ あきらめ あきらめ

有 此 心 傳 聖 經 之 道 詩
 曰 業 只 為 心 及 心 父 母
 氏 之 所 好 亦 為 心 所
 魚 思 之 世 之 傳 民 之 父
 母 詩 之 節 故 南 山 維 石

口 55 口
 死 比 披
あきらめ あきらめ あきらめ

毛 也 也 母
あきらめ あきらめ あきらめ

嚴 之 赫 之 師 乎 氏 奧 尔
 曉 有 國 之 不 可 以 之 情
 碎 列 為 天 下 傳 矣 結 云
 般 之 妹 喪 即 友 配 之 帝
 儀 監 于 般 後 命 不 易 為



書始の集

也外本内素季乃民施奪
 是故紂殺紂民受紂教
 利民殺是故之博而入
 若亦博而入貨博而入
 若亦博而入出康倍日惟

ス	す	す	世	世
書	春	寸	能	世
部	教	次	情	勞

得民利以國失民利失
 有德此有人有人以有
 土有土以有財有財以
 有用德之有也財之末



あつらんごころ
赤辰の月
かんごん
秋
あふあふ
あふあふ
あふあふ
あふあふ

あつらんごころ
命不平常道者知得之
不若知夫之矣
楚國之成
為國者
為賢仁親
以為宗

あつらんごころ
あふあふ
あふあふ
あふあふ
あふあふ
あふあふ
あふあふ
あふあふ

あつらんごころ
日着有一个
他技
如有
己有
好之

柳舟の力
 池有波文
 物原家
 谷をわくろ
 なるのい
 なるのい
 なるのい

寔徳を以て徳保我子
 孫黎民尚亦有利於人
 のげんせいのあつたがごとく
 へきを而違て得て不道
 寔を徳を以て徳保我



七夕の夜

子孫黎民亦同強哉唯
 仁人放流之遂諸曰夷
 不占曰中國此謂唯仁
 人者社中人能忍人見
 笑而不強者其為也強

唯是昨夜
 亦及明也
 海不枯
 亦及明也
 亦及明也
 亦及明也

先命也凡不善而不
 退避者不能遠也
 人之所好
 是偶也人之性
 是故君子有大
 是偶也人之性
 是故君子有大

亦及明也
 亦及明也
 亦及明也
 亦及明也

亦及明也
 亦及明也
 亦及明也
 亦及明也

仁の字に似てゐるが、
仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、

仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、

忠判大教

天
地
人
福寿

仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、
仁は心と二に人を意味するが、

其の五姓より
一虎二鹿
三兎四犬五
虎の虎は八
虎の虎は定め
虎の虎は定め
虎の虎は定め
虎の虎は定め
虎の虎は定め

也長國家而勢封周
者自小人矣彼為若之
小人之使為國家者
也其維有若者亦若也
之也夫此謂國不以利

世の虎は
ありとあり
ありとあり
ありとあり
ありとあり
ありとあり

世の虎は
利は我利也
右は十
天下は
統倫保
細論保
自は

物さる物 ものさるもの 人 ひと 参 まゐ

あつち あつち 参 まゐ 人 ひと
 参 まゐ 人 ひと
 参 まゐ 人 ひと
 参 まゐ 人 ひと

物さる物 ものさるもの 人 ひと 烈 れつ

あつち あつち 烈 れつ 人 ひと
 烈 れつ 人 ひと
 烈 れつ 人 ひと
 烈 れつ 人 ひと

物さる物 ものさるもの 友 とも 善 ぜん 交 かう

あつち あつち 友 とも 善 ぜん 交 かう
 善 ぜん 交 かう
 善 ぜん 交 かう
 善 ぜん 交 かう

物さる物 ものさるもの 友 とも 惡 あく 交 かう

あつち あつち 友 とも 惡 あく 交 かう
 惡 あく 交 かう
 惡 あく 交 かう
 惡 あく 交 かう

あつてはけ
あつてはけ

大甲ふぢい
うくはけ
あつてはけ
あつてはけ

あつてはけ
あつてはけ
あつてはけ
あつてはけ

あつてはけ
あつてはけ

あつてはけ
あつてはけ
あつてはけ
あつてはけ

あつてはけ
あつてはけ
あつてはけ
あつてはけ

皇都池田東籬其編集共書
今 赤川保之丞



文政十二年
己春

書房

皇都

浪華 河内屋長兵衛

北村四郎兵衛
北村屋仁兵衛
北村屋太助

